

ユーザーからみた 「ネット中立性」

2006年12月19日

ハイパーネットワーク社会研究所
会津 泉



《ネティズン》がネットの革新を主導

- 「国民」ではなく、「市民」でもない
- 情報社会の主体 = 智民 (公文俊平)
- ネットのヘビーユーザー (「平均値」ではない)
- ネットによってエンパワーされた主体
 - ネット上のコミュニティで協働、創発
 - オープンソースなどが典型
- これからも、この傾向は続く



オタク

智民が世界を変えてきた

- 『WIRED』創刊号は、オタク特集で始まった
- Yahooもモザイクも、オタクが始めた
- 韓国のPCバンも
- NapstarもWinnyもYouTubeも



「ユニバーサルサービス」は、インターネットをもたらさなかった

- インターネットは3分10円の世界ではなかった
- 専用線の値下げと「定額制」がインターネットの普及を助けた
 - ブロードバンドも同じ流れ
- 出発点は「平等」ではなかった
 - 定額制 = 沢山使うほどトクする仕組み
 - 結果的に多くの人がトクをした



ユーザーとは

- 身銭を切って使う人たち
3分10円を高いと思う人たち
- 百聞は一**験**にしかず
自分で経験・理解・創造する人たち
- パソコン通信も、インターネットも、自ら発信する
ユーザーたちが先導してきた
- ブログもSNSも、YouTubeも、それを支えるネット事業も、ユーザーの発信が無ければ成り立たない



ベキ法則の示唆するもの

- 少数のヘビーユーザーが存在すること自体は、一般現象
- 彼らが駆動力となっている成長・革新の可能性を摘み取ることは、ネットの自殺行為では



議論の枠組みとして

- ステークホルダーによる議論が重要
 - だれが当事者か？
- 「マルチステークホルダー原理」
 - WSIS・IGFの議論では国際的認知
 - 政府・市民社会・産業界の3部門が同等参加の原理
- 「市民社会」とは？
 - 利用者、NGO、NPO …
 - 福祉、教育、少子化、環境なども含む**広義の非営利セクター**
- グローバルな視点、ローカルな現実
 - 国内に閉じたネットではなくなった
 - 地域の視点、地域からの発信の重要性



「市民社会の役割と責任」

世界情報社会サミットWGIG報告書より

1. 意識啓発と人材育成
2. 公的利益の推進
3. ネットワーク構築の支援
4. 市民の民主プロセス参加の働きかけ
5. 少数者の視点を導入
6. 政策形成に関与
7. ICT関連政策への専門性、技能、経験、知識貢献
8. ボトムアップ、人間中心、包括的政策形成に貢献
9. 技術、標準の研究開発
10. 最善慣行の開発、普及促進
11. 政治、市場が社会全体に責任をもつことを支援
12. 社会責任とよきガバナンス慣行を奨励
13. 「流行」や利益と縁遠い社会的プロジェクトを推進
14. 人権、持続的開発、社会正義とエンパワメントに基づく人間中心の情報社会へ



「インフラただ乗り論」について

- 「定額」料金に含まれるものは？
 - 一定の通信トラフィックを想定
- 「使いすぎ」ユーザーへの課金？
 - 「使わない」ユーザーには返金するの？
 - 課金コストはペイするの？
- ユーザー・コンテンツ提供者・通信事業者のwin-win関係が重要

地域の多様性

■ 全国ブロードバンドマップ(総務省)





「中立・公平」、「平等」 ネットは本当にそれでいいの？

- 公平と公正は違う
- 機会の平等と結果の平等は違う
- 無理に「公平」にしなくても良いのでは...
- 結果の平等は、到達までに時間がかかる



NGNへの素朴なギモン

- <寄せ集め>のコンセプト
 - 固定電話の設備更新 チープIP
 - インターネットの弱点を補完
 - QoS セキュリティ
 - 携帯固定の融合(FMC)
 - 携帯モデルの席卷？
- 使いやすさ、コストは犠牲に？
 - 事業者・ベンダー主導
 - 面倒で高いものになりそう、
- インターネットの特性であるオープン性が失われる？
- ユーザーの声はどこに？